



◆vol. 171

## 『運 ドン・キホーテ創業者「最強の遺言」』

安田 隆夫(著) 文春新書(2024年6月)



2025. 10  
中村淳税理士事務所

34期連続で増収増益を成し遂げ、売上二兆円のドン・キホーテ。  
それを実現した「運の法則」「勝利の方程式」が伝授された一冊。

# book review

### 【感想】

ドン・キホーテ創業者の安田隆夫氏が末期がんであることを明かして、「最強の遺言」として書き残した本で、著者が経験した全てのことを伝えようという情熱が伝わってきます。

人によって「運の総量そのものに大差はない」と考えられており、「運を使い切れる」か「使い切れない」の差だと主張されています。さらに、運の良し悪しは、個人に留まらず、会社(組織)としての「集団運」があり、それが成長・発展の決め手になると主張されています。

ドン・キホーテの圧倒的な強さの秘訣は下記ですが、

- ・権限移譲と個店主義(仕入、陳列、値付け、販売まで全て任せる)
- ・顧客最優先主義(仮に自分がお客様だったら、一体どうして欲しいかを具現化すること)
- ・逆張り経営(大手小売店の常識に囚われない深夜営業、圧縮陳列など)

従業員数が9万人を超える組織において、上記を実現し、自燃・自走できる人材を育てる根底には「源流」という経営理念集の存在があります。

本の巻末には、源流の抜粋(経営理念・社員心得十箇条・マネジメントの鉄則九箇条)が紹介されており、これだけでも一見の価値あります。

### 【以下引用】

- ・戦略や戦術を語る前に、まずは戦闘モードを全開にせよ。戦わなければ運は落ちる。
- ・幸運が巡ってきた時に、運をとことん使い切って、目一杯の果実を収穫しておく。それを不運が巡ってきた際の蓄えとしてキープし、頑丈なセーフティーネットを築いておく。そうすれば、向かい風が吹いてきても十分堪え忍べるため、気持ちに余裕をもって不運の最小化ができる。
- ・人格は、強力な「集団運」を引き寄せる最大のキーワード。
- ・「指示と命令」ではなく「感謝とお願い」
- ・世界は自分を中心に回っているから、ほとんどの人の目には「主語は自分」という鱗が何層にもへばりついている。壁にぶち当たった時、変えねばならないのは立脚点そのものだ。この立脚点は、主語と言い換えることができるだろう。要するに、原因を解決しようとする側ではなく、原因になっている側から発想してみる。自分を主語にするのではなく、相手を主語にして考えてみる。

安田隆夫氏の3部作「運」「安売り王一代」「圧勝の創業経営」はどれも魂が揺さぶられる良書です。ドン・キホーテは攻めのイメージが強いですが、攻めと守りに長けた経営者です。